

核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会

核兵器の脅威と戦争の無意味さを再認識するとき

～核兵器の存在を永久に拒否する～



多くの方が参加して開催された「核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」

連合福島主催による「2017年核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」は、8月19日（土）福島市・福島県教育会館大ホールにて開催され、県内各地より加盟組織組合員約350名が出席した。

冒頭、主催者を代表して連合福島今泉裕会長は「今、あらためて核兵器の脅威と戦争の無意味さを再認識する時が来ている。戦争と核兵器使用そのものが非人道的行為であることを歴史が証明しており、歴史から学び、その反省を次の世代に継承しなければならない。いかなる理由があろうとも核兵器の存在を永久に拒否しなければならないことと、声を上げ続けて行くことが核兵器廃絶への道のりである。平和の尊さを考える機会にしたい」と挨拶した。

引き続きNPO法人ピースデポ代表の田巻一彦氏をお招きし、「核兵器禁止条約と北東アジアの非核化—<世界的禁止>と<地域的禁止>を共鳴させる—」と題した講演を頂いた。

最後に今年7月、史上初めて「法的に核兵器を禁止する」ことを目的とした「核兵器禁止条約」が国連で採択されたことを心から歓迎するとともに、唯一の被爆国として、核兵器による悲惨な被害が二度と起こらないように、「核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざして、職場や地域にゆける核兵器廃絶運動を今後も継続して取り組む」とした「2017ふくしまからの平和アピール」を箭内孝仁県中地域連合事務局長が読み上げ、満場一致で採択して、「核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」を終了した。



主催者代表挨拶をする今泉裕
連合福島会長



ご講演を頂いたピースデポ 田巻一彦代表



平和アピール宣言を読み上げる
箭内孝仁県中地域連合事務局長